

森林教室をはじめるとつづけるには？

津軽森林管理署	発表者	主任主事	郡司 耕平
	チーム員	自然再生指導官	赤澤 友光
		(津軽白神森林生態系保全センター)	
		主事	武田 航史
		主任主事	福島 和将
		森林整備官	今野 梢
	チームリーダー	森林技術指導官	吉川 浩人
	アドバイザー	署長	佐藤 智一

1 はじめに

(1) これまでの森林環境教育に関する取組

私たち津軽森林管理署と津軽白神森林生態系保全センターは平成27年から連携して、鱒ヶ沢町の2つの小学校（西海小学校、舞戸小学校）の4年生に向けて森林教室を実施してきました。

(2) 森林教室の内容

① 除伐体験

この学習では児童にスギ人工林の灌木を伐倒してもらいます。伐倒による林内環境の変化を体感してもらい、児童に除伐の必要性を理解してもらいます。



写真1 灌木を伐倒する様子①



写真2 灌木を伐倒する様子②

② 葉っぱ探し体験

この学習では予め選定した12種類の植物をグループに分かれた児童に探してもらいます。児童には林道を散策しながら、配布資料や職員からのヒントを頼りに探してもらいます。植物を発見したらグループで相談し植物名を決めます。正解だったら職員から植物の特徴や用途等の説明を受けます。この学習は児童が主体的に森林に生育する植物を学べる内容になっています。



写真3 葉っぱ探しで用いた資料



写真4 葉っぱを探す様子

こうした内容を大きく変えず、これまで鱒ヶ沢町の児童に森林と関わる場の提供を続けてきましたが、令和4年度から深浦町の小学校でも同様の取組を行うことになりました。

2 深浦町の小学校で森林教室を実施するに至るまで

(1) 深浦町からの要望

令和3年10月に行われた地元町長との意見交換で深浦町から「町民が森林に関心をもつ機会を提供していただきたい」と要望をいただきました。

(2) 森林管理署・センターからの提案

これに対し、学習に参加した児童から保護者等の大人に裾野の広がりが期待できること、すでに鱒ヶ沢町で森林教室を実施した実績があり協力が可能であることから、森林教室の実施を提案しました。

(3) 深浦町の反応

その後同年11月に深浦町農林水産課・教育委員会に実施内容を説明したところ好感を得ることができ、町内にある3つの小学校に対する実施希望の有無の聞き取り調査を町の教育委員会が窓口となって行った結果、いずれの小学校からも実施を希望すると回答をいただきました。

こうして令和4年から鱒ヶ沢町の2つの小学校に加えて、深浦町の3つの小学校でも森林教室を実施することになりました。

3 森林教室の実施に向けた取組

(1) 活動フィールドの選定

深浦町の森林教室で使用するフィールドについては、午前中の実施、給食の時間までに帰校したいという学校からの2つの要望に加えて、学校が移動で用いるバスの走行に適した場所という条件を考慮した結果、深浦小学校・いわさき小学校の2校は十二湖自然休養林を、修道小学校は学校の近くの国有林造林地を選定しました。なお選定にあた

っては、これまで鱈ヶ沢町の森林教室で実施してきたプログラムに要した時間やフィールドの特徴等の情報を森林官に共有し役立てました。

(2) 除伐体験に代わり丸太切り体験を導入

森林教室で実施する内容については、修道小学校については鱈ヶ沢町の小学校と同じく、除伐体験と葉っぱ探しを実施しました。一方で深浦小学校・いわさき小学校は除伐に適したフィールドが近隣になかったことから、除伐体験の代わりに丸太切り体験を実施し、職員の補助の下でスギや広葉樹の丸太を切ってもらいました。



写真5 丸太を切る様子①



写真6 丸太を切る様子②

4 結果

森林教室後には小学校に伺い、教頭先生をはじめとした森林教室に参加した教員の皆様にヒアリングを実施しました。

(1) 令和4年度のヒアリング結果

令和4年度の森林教室を終えて実施したヒアリングでは森林教室の感想について、いずれの小学校からも好評価を得ることができ、次年度も引き続き実施してほしいと回答をいただきました。一方いわさき小学校では3・4年の複式学級で次年度の対象児童は既に体験済みであることから実施しないことになりました。

(2) 令和5年度のヒアリング結果

令和5年度の森林教室を終えて実施したヒアリングでは、①場所や所要時間については、適切だった。②プログラムの感想については、現地での実体験が伴う内容でよかった、体を動かすことが好き

国有林で行った林業体験学習についてのご意見・ご感想のお尋ね

令和5年11月15日
津軽森林管理署

6月28日に津軽森林管理署及び津軽白神森林生態系保全センターで行った林業体験学習に参加していただき、ありがとうございました。今後の林業体験学習をよりよいものにしていくために、学校側の感想や意見を集めているところでございます。ご多忙のところ恐れ入りますが、下記の質問にお答えいただこうお願い申し上げます。

- ① 所要時間の長さはいかがでしたか（長い、丁度良い、短い）。
- ② 講師の説明の仕方や対応はいかがでしたか。
- ③ 今回は雨天の決行となりましたが、当署の対応は十分なものでしたか。
- ④ 鋸を使用した作業を行いました感想をお聞かせください。
- ⑤ 葉っぱ探しの感想をお聞かせください。
- ⑥ 林内での実習を行うにあたり当署が実施したクマ対策の感想をお聞かせください。
- ⑦ 体験学習の後に児童から質問はありましたか。
- ⑧ 今回の体験学習に参加してみて、児童にどのようなことを学んでほしいとお考えになりましたか。
- ⑨ 参考までにですが今後実施してほしい内容についてお聞かせください。
- ⑩ 今後も体験学習を継続していくための取り組みについて。

質問は以上です。

写真7 質問用紙

な児童に合った取組だった。③安全対策については、最も重要視していることは児童の人数に対して職員が十分に配置されていることで、こうした要望を満たした職員配置で進行していた。④荒天時における実施の有無については、児童が楽しみにしていることは現地での学習なので、可能な限り現地実習を行ってほしい。などの意見・感想をいただきました。



写真8 ヒアリングの様子

5 まとめ

(1) 森林教室をはじめするには

私たちが深浦町の小学校で新しく森林教室をはじめることができた理由としては、①地域の自治体の意見を集める場を設けていること、②深浦町からの要望があったこと、③要望に対し森林教室という形で応えるという提案が受け入れられたこと、④実施に向けて深浦町農林水産課・教育委員会から協力してくださったことの4つが挙げられます。

(2) 森林教室をつづけていくためには

地域では過疎化していることで複式学級の学校や対象の学年に児童が不在の学校が見られるようになってきており、実際にこうした理由で対象の5つの小学校のうち2つの小学校では来年度は森林教室を実施しないことになっています。さらに、このような状況では担当教員の入れ替わりにより学校の森林教室への関心度合いが変化する可能性も考える必要が出てきます。森林環境教育を行うための取組を継続するうえでこれらの問題への対応が求められます。

そこで私たちは森林教室を続けるためには学校から関心を持ち続けていただくことが大切だという考えのもと、①小学校に森林教室の説明のために直接伺うといったアプローチを行い学校との関わりを持ち続けること、②今後もヒアリングを実施し学校からの要望を集め、森林教室のプログラムに反映しより満足度の高い内容の森林教室を提供することに努めることで流れを絶やさないようにしていくこととしています。



写真9 学校と対面の打ち合わせ

津軽森林管理署と津軽白神森林生態系保全センターでは5つの小学校に向けて森林教室を行うようになってから2年経ちましたが、今後も地域の児童に対し森林と関わるための窓口としての役割を果たしていきます。